

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念を一部変更する形で、「地域社会の一員として自信がもてる暮らしとケア」という理念を新たに加え、事業所理念を構築し、地域活動へ積極的に参加するなどの方向づけをした。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り等で、職員が常時集まる事務所の目立つ位置に、基本理念として掲げ、特に朝の申し送りの時間のOJTとして活用し、確認共有を都度行っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	今年9月発行の広報誌「よこたの郷通信」の冒頭に基本理念を紹介掲載し、家族はもとより、居宅支援事業所などに配布して理解をしていただけるように配慮した。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	国道や駅にも近く、又通学路にもなっており、随時人通りがあるような環境である。利用者の散歩の機会も多く、近所の方々とも普通にあいさつを交わすような関係作りができています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元大市夏祭りに参加するなど、積極的な取り組みをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>家族介護教室開催に向けて講師依頼があり、11月中旬に講演を行う。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員会等を通じ、運営者、管理者、職員が一同に会して自己評価や外部評価の意義を理解する機会を設け、利用者へのより良い支援を模索している。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>今年5月、7月と運営推進会議を開催し、家族の方や地元自治会の方、行政機関の方からのご意見を活かして、運営にあたっている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>奥出雲町の行政サービスの取り組みに関して、事業者側からの意見を、担当課の職員さんと交換するなど、連携は、常時できている。その他の行政サービスについても、福祉事務所職員と連携を密にしている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		○	<p>利用者の家族関係から考えると、今後利用を検討しなければならないケースもあるので、福祉事務所の担当者と相談をして準備をしていく。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内で、虐待に関する資料をもとに、申し送りの時間を利用してOJTを実施した。</p>		<p>11月中旬に地域内3施設合同での研修会開催予定</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	4月以降入居となった2名の新規利用者に対して、重要事項を基に丁寧に説明を行い、契約締結を行った。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の声には常に耳を傾け、謙虚に受け止めるようにしている。必要があれば職員会の場での協議や、業務日誌に記載し注意を促すなど、職員のレベルアップに努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会はそれぞれ不定期だが、電話での連絡を含めると、概ね2週間に1回程度は、状況の報告ができています。日常場面をデジカメに撮り溜めているので、時折プリントアウトしてご家族にお渡ししています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	階段踊り場に、国保連の介護サービスへの苦情受付ポスターを常時掲示、グループホーム出入口には、苦情相談受付箱を設置している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや職員会議、日々の活動の中で随時聴いて、細かな改善に努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	9月から夕食時の職員が2名から3名になるようにするなど、体制の柔軟性は心がけている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定期的に職員の親睦会を開催するなど、人間関係が円滑になるように配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度上半期は、内部研修とOJTの取り組みがほとんどであったが、職員の知識や利用者への対応レベルは、確実に上がっていると実感している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年10月開催の雲南地域グループホーム部会に4名の職員が参加し、他のグループホーム職員と交流もあった。交換実習の約束もできて、今後は楽しみである。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	特に朝の申し送り時に、利用者の前では出せない本音を言い合えるように取り組んでいる。又、職員の勤務態度や表情に気をつけ、必ず声を掛けるようにしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	今年度から業務分担を明確にし、各自責任をもって仕事にあたってもらうようにした。以前より、業務量としては増えた職員もいるが、それぞれがやりがいをもって、毎日楽しそうに仕事に就いているように感じられる。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居から3ヶ月程度は、住み心地を中心に細かい問いかけをしながら、本人の想いを感じてのケアの方法を模索し、個人記録用紙を微妙に変化させ、職員で共有して対応している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居にあたり家庭訪問を行い、家族から本人の生活歴などを聴取しながら、ご家族の方自身の心境や入居にあたっての心配事などを察知するようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネを通して、入居の打診があるケースがほとんどであり、他のサービスの検討がほぼ終わっている感があるが、インフォーマルサービスを中心に、可能性は検討材料に入れるようにしている。必要としている支援の見極めは、入居前調査を踏まえ、入居後徐々に行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人状況によって対応は様々だが、本人には、入居者の生活ぶりを撮影した写真などを基に説明している。家族には事前に見学を訪れていただいている。入居後は、家族に長時間滞在をしていただいたり、面会を頻回にいただいたりする配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員研修などで、利用者が生活を営んでいくうえで、役割のない生活ほど淋しいものはないという共通理解をしている。日々の食事作り、掃除、洗濯など生活場面で、利用者職員が共に行動するようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会の際や、家庭を訪問させていただいた際などに、随時本人の状況を伝え、必要に応じて協議し、ケアのヒントを一緒に考えるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会にあたっては、事前連絡はいらないので、いつでも来ていただくようにしている。ふらりと来所されることが多い。入居により、住まいが別々になることで、精神的余裕もでき、一部の利用者を除いては、面会や電話連絡も頻繁で、ご家族と本人の人間関係は概ね良好である。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元のお寺や自宅に思い入れのある利用者の要望に応え、定期的(月に1回程度)に自宅やお寺に行くように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々の生活ぶりを観察しながら、人間関係を調整している。食事の際に会話が弾むようにしたり、外出時のグループ編成に配慮したりしている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今春、町内の特養に入居された前利用者に面会に行った。秋の文化祭には、利用者同士の久しぶりの対面が微笑ましかった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今後の自分の居場所に関して、揺れ動いている利用者に対して、随時対話をし、方向性を確認している。意思疎通が困難な利用者については、本人の想いを汲み取るようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から直接聴いたり、ご家族の面会の折に昔の生活ぶりを尋ねたりしている。利用者の人となりを感じて、ケアにあたるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	状況は日々変化するし、場合によっては日内変動もある。それらを踏まえて、ケアの微調整をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人の意向は、随時調査をして介護計画を作成している。	○	調査から意向を汲み取る形での計画作成はできているが、今後は、本人・家族・職員で協議して、介護計画を作成していくように方向付けをしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の細かい変化に関しては、個人記録用紙を微調整する形で対応している。大きな変化があった場合は、随時計画を見直している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	始業時に、個人記録や業務日誌に必ず目を通すように徹底しているので、情報を共有するとともに、利用者の変化に即した実践をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が地元地域の方に会いたいなどの要望があったときに、階下のデイサービスに行き、歓談してもらうような対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	今のところ運営推進会議の範疇で支援を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	雲南地域介護サービス調整会議や、地域ケア会議へ積極的に参加し、情報の交換を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターの職員さんに、運営推進会議メンバーにも入ってもらっており、逐次グループホームの実情を掌握していただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に永生クリニック・コスモ病院・加藤医院であるが、利用者が、以前から通院していた馴染みのDrに、継続的にかかれるよう支援を続けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	永生クリニック精神科に専門医がおられ、受診の際に認知症についての相談助言を受けている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	特に地元連携病院の永生クリニックの看護師に相談をしながら、利用者の体調管理に努めている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	認知症のため、入院による環境の変化で混乱される場合が多い。そのため、治療の必要性をDrと相談しながら、早期の退院に向けて協力体制をとっている。今年度も当初2～3日の入院予定を1日にした実績がある。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している		○	介護度や年齢の高い利用者については、既に特養申請を済ませておられるケースが多い。重要な案件なので、他のケースについても話し合いを深めていかねばならない。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	徐々に今までできていたことが、できなくなっていくという現実の中で、受診の際に、Drへ報告・連絡・相談を随時している。これらの検討や準備を継続して行っていく。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今春町内の特養に入居された前利用者は、本人も十分に納得された上での入居であった。住み替えによるダメージは、ほとんど無かったと思われるので、今後も同様の取り組みをしていく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員同士の何気ない会話から、利用者の情報が漏れないように、申し送りなどで徹底を図っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	耳が遠くて意思疎通が困難な利用者に対して、身振り手振りで理解をしていただくようにしたり、お茶の熱い冷たいなどの希望を都度伺うようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員がケア全般に、さりげない支援を心がけている。散歩も引率するという形ではなく、遠くから見守るという支援を多用している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出や通院の際の服装には特に気を遣って、おしゃれをするように心がけている。また地元の美容院や理髪店に行くようにしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの能力に応じて、料理の下ごしらえや盛り付け、食器洗いなどに積極的に関わってもらうようにしている。献立も日常会話の中で利用者と共に考えている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	牛乳、健康食品など希望に合わせて楽しめるように配慮している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の傾向を掴むため、個人記録に排泄時刻を記入するようにしている。なるべく布パンツの着用を継続して頂けるよう、排泄誘導のタイミングを工夫している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほぼ毎日入浴される方が半数以上おられる。その他の方は体調に配慮しながら、午前中、午後、夕方と希望に沿う形で支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	廊下の2箇所ソファを置き、のんびりうたた寝をされる姿がよく見られる。又、寒くなると和室にこたつをしているので、自然に丸くなって入られることもしばしばある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中では、食事の下準備や洗濯たたみなどを中心に、おしゃべりをしながら楽しんで行ってもらっている。又、散歩やドライブ、畑仕事など随時活動をしてもらっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		○	外出時などで、金銭を扱える場面があれば、扱っていただけるよう支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や近場のドライブは頻繁に行っている。戸外に出かけることは、ストレスの発散にもつながるので、いつも気くばりしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事で日帰り温泉旅行や、遠足などを計画しており、順次実行できている。特に誕生日には、本人の意向を受け入れ、楽しんで頂けるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	深夜早朝の時間以外は、ごく普通に連絡ができるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでもどなたでも気軽にお越しいただけるようにしているので、家族が仕事の帰りにふらりと寄られたり、自宅近所の人のご無沙汰しているので様子を見に来られたりしている。来られると自室やホールでお茶を飲みながら、ゆっくりと過ごして帰られることが多い。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平素は、申し送りや職員会議で確認をして業務にあたっている。特にスピーチロックについて日常会話の中で気をつけるように申し合わせている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないことの意義を理解しており、深夜・早朝を除いては、玄関の鍵はしていない。日中時間帯には、自由に散歩に出られる雰囲気ができている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	必要以上に居室に入りしないようにしているが、さりげなく観察し、特に転倒事故のないように配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	なるべく自然な形で生活していただくようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	行方不明対策として、玄関に鈴を設置し、玄関の出入りには神経を尖らせている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	常時掲示してあるマニュアルに沿って行動ができるように、申し送り時などに確認をしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練等により、内部的には災害に備えている。	○	地域の人々の協力を得るところまでは進展していないので、今後理解を求めるようにしていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	利用者の状況については、今後起こりうるリスクも含めて、随時家族に報告・連絡・相談している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや観察により、体調の変化には迅速に対応できている。必要に応じて早めの受診を心がけている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬状態は、処方箋コピーで常時確認している。薬の用法や副作用も理解しており、症状の変化についてDrに報告し、微調整も行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の確認を一覧表にしており、状況を確認しながら、必要に応じて牛乳を飲んで頂くなどの工夫をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは毎食後に行っており、義歯管理も毎夜薬剤につけ置きして清潔にしている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>家庭的な食事内容としており、栄養士を配置して栄養状態を管理している。また、夏場は特に水分補給について申し送り、職員の注意を喚起し、体調維持管理に努めた。</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>保健所から職員を派遣していただき、感染症に関する研修会を実施した。インフルエンザ予防接種は10月から順次行っている。その他感染症は、マニュアルに沿って対応していく。</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>食材は地元食材を多用し、新鮮な状態で食べるようにしている。調理器具は、塩素消毒を毎晩している。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>				
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>常時玄関まわりに花や植木を置くようにしている。また、ベンチも置いて気軽に利用できるような工夫をしている。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ところどころにソファーや観葉植物、季節の花を置いて、ゆったり過ごせるようにしている。利用者がソファーで談笑したり、昼寝をしたりされることがいつもみられる。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファー2箇所と和室が1箇所あり、それぞれの空間で、自分のペースで思い思いに過ごせるようにしている。近頃は、和室のこたつが人気がある。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物を置いて頂くようにしている。自宅から人形やこたつ、椅子などが置かれ、それぞれの個性が感じられる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	排泄の失敗があった時は、迅速に換気をして不快な臭いが長時間継続しないように配慮している。空調はエアコンが主であるが、こまめに調整をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		○	随所に手すりがあるが、トイレや風呂場での、立位姿勢が安心してとれるような構造にはなっていないので、もう一工夫をしていく必要がある。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ表示を図柄にしたり、風呂場入り口に暖簾をかけたりしている。今のところ、場所の見当識は比較的保たれており、混乱はあまり無い。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関近くに畑を耕作している。季節毎の野菜ができるので、楽しみでもあり、活動の場にもなっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

事業所理念は、一言でいえば「普通の暮らし」ということになります。スーパーに買い物に行き、公園で日向ぼっこをし、近所の方々と立ち話をする。時には温泉に出かけ、お祭りに行ってみる。認知症になっても地域の中で堂々と生きていくと実感できるような支援を心がけています。